長岡あーかいぶ第20号

編集·発行/長岡市立中央図書館文書資料室

https://www.lib.city.nagaoka.niigata.jp/?page_id=134

機関紙創刊20号~市民・地域と文書資料室をつなぐ~



▲「長岡あ一かいぶ」のバックナンバーはすべて文書資料室ホームページ>刊行物のページからご覧いただけます

文書資料室の機関紙「長岡あーかいぶ」は、平成 17年(2005)9月の創刊から20号を迎えます。

創刊の動機は、中越大震災への対応です。災害発生時の歴史資料の廃棄・散逸を防ぐためには、資料所蔵者の皆様との連携が大切です。所蔵者との新たなつながりをつくることを目的に、本紙を創刊して定期的に送付することにしました。

現在の本紙は、創刊の動機を発展させて、文書資料室の様々な活動情報を発信する場になっています。長岡市史双書の新刊、古文書解読講座等の行事、長岡市資料整理ボランティアの定例活動、歴史公文書の整理などを紹介。郷土長岡のアーカイブ(記録保管庫)としての役割をお知らせする紙面構成につとめています。

新たな視点による地域史の叙述にも挑戦しました。「本の虫」ならぬ「文書の虫」シリーズは、漆器類の包紙(第5号)、長岡藩士の肖像画(第6号)、錦鯉の宣伝パンフレット(第11号)などを題材に、所蔵資料を活用した資料紹介を試みました。

「長岡の碩学」はミニ人物誌で、歴史・民俗・教育など様々な分野の学究人を紹介しました。温故知新の精神で先達の足跡を振り返っています。「長岡の碩学」の一人、天保年間(1833-1844)に蔵王代官をつとめた阿部信成は、膨大な「安禅寺御用記」を編集し、過去の記録を伝えて活かしていくことの

重要性を説きました。

本紙のバックナンバーは、歴代職員の地道な活動の記録でもあります。歴史資料の保存・活用という命題を、どのように市民・地域とともに考えていけばよいのか。20号を越えて今後も編み続ける本紙に対して、文書資料室の将来像につながるご意見・ご要望をいただければ幸いです。

長岡市史双書 No.61

『蔵王権現領安禅寺御用記(7)

最新刊!

日並記・諸掛合留・諸願書留(文化 10・11 年)』

安禅寺文書の翻刻史 料集シリーズの第7弾 を刊行しました。文化 10・11年(1813・1814) の蔵王権現・安禅寺の古 記録「日並記」「諸掛合 留」「諸願書留」から長 岡の歴史を探ります。

カラーロ絵には蔵王 領中島の絵図を掲載。江 戸時代の村のすがたを 歴史資料からひも解き ます。



頒布価格 1,500 円 B5 版・131 ページ

令和3年度の文書資料室

【古文書解読講座】

初心者向けの「古文書のいろは」、経験者向けの「古文書に見る長岡のすがた」、両講座ともに1か月ほどの延期を経たものの、無事に開講することができました。定員を少なくし、マスクの着用、入口での検温・消毒、音読の中止など、感染対策もしっかりと行いました。会場の換気のため10分ほど休憩時間を設定した分、効率よく講義を進めるための教材の工夫も見られました。

「いろは」にはのべ87人、「すがた」にはのべ179人が参加しました。2年振りの開講に、皆さんの熱意が感じられました。



【長岡市史双書を読む会】

長岡市立中央図書館で開催された反町茂雄文庫展の関連イベントとして、12月7日、14日に行いました。のべ68人が参加しました。テキストは長岡市史双書No.60『古書肆弘文荘・反町茂雄と長岡 『反町茂雄文庫目録』第2集(補遺)』を使用し、編集を担当した職員4名が講師をつとめました。ウイルス対策として、講師の前に飛沫防止パネルを設置し、参加者には間隔をあけて座っていただきました。

反町茂雄氏の業績や著作の紹介はじめ、内容は多岐にわたりました。また、編集の苦労話や裏話なども語られ、参加者は興味深く聞き入っていました。



○ ○ 長岡市資料整理ボランティア ○ ○ ○ ○

【定例活動】

長岡市を対象とした県の新型コロナウイルス特別 警報発令を受け、5月に古文書整理が、9月に新聞資料整理が中止となりましたが、それぞれ6回ずつ活動 をすることができました。

新聞資料整理では、全国紙から地方版と災害に関する記事を切り抜く作業にのべ28名が参加、46か月分を整理しました。

古文書整理では、古志郡村松村金子家文書のクリーニング及び目録とり作業にのべ59名が参加、約250点の整理を終えました。

【十日町市古文書整理ボランティアとの交流】

3月17日、十日町情報館を会場に2年ぶりの交流 会を行いました。新型コロナウイルスの感染状況を鑑 み、長岡市は担当職員3名が代表して参加しました。

当日は、十日町市古文書整理ボランティア写真整理 チームの活動成果である「第13回山内写真館資料写 真展 昭和の十日町~心に残ったわたしの一枚~」を 見学、その後、十日町市のボランティア担当職員やメ ンバーの方々と写真展や日頃の活動等について意見 交換を行いました。



▲新聞資料整理



▲古文書整理

連載 長岡の碩学(20)

秋山 景山

1758 (宝暦 8) ~1839 (天保 10)

藩校崇徳館と秋山景山 秋山家は代々長岡藩主牧野家に仕えた。8代目は朋信、号を景山(けいざん)といった。徂徠学派の儒学者である。

10 歳で家督を継ぎ、25 歳で江戸勤務となる。出府中、儒学者の服部真蔵に師事して徂徠学を学ぶ。帰郷し、文化5年(1808)に藩校崇徳館が創設されると教授となった。

景山は子弟の教育に鋭意取り組んだ。師の教えを固く守るだけでなく、日々実践していくことが肝心であるという自らの学びの姿勢を基にした教育方針のもと、「要は失を矯(た)め、長を奨する」(短所は論し、長所は伸ばす)指導を行い、多くの人材を育てた。厚い信任を得て、同12年には崇徳館都講(校長)となり、通算21年にわたり藩の教育を牽引した。

藩士への学問奨励「ふみの道しるべ」 文政 6 年 (1823) 9 代藩主牧野忠精は、稲垣平助や牧野頼母など藩の重臣らに対し、学問の奨励を命じた。具体的には、四書五経や歴史書の「会読」(読書会)を行うというものであったが、その指南役として選ばれたのが景山であった。

「ふみの道しるべ」(『長岡市史』資料編3近世二)は、会読に参加する重臣らに向けて、藩の学問振興の礎となる気概を持って臨んでほしいという思いを込め、景山が書き上げたものである。「皆さんが学問に退屈するようなら私は辞める」という己の覚悟も記されている。

忠精は4回目の会読を聴講した後に「ふみの道しるべ」を読み、激賞した。彼の教えや人柄に接するうちに親密となり、以降、景山は藩儒として藩政に関する相談も受けるようになっていく。

領民とのかかわり 天保2年 (1831)、10 代藩主牧野 忠雅の就任当時、長岡藩は財政難に直面していた。文 政 11 年の大地震で被害を受け、続いて起きた台風や 洪水の被害、天候不順による凶作の影響など、種々の 原因が重なりあっていたのである。

忠雅は藩政改革を宣言し、家中の者に広く意見を求めた。景山は改革について何点かの「上書」を提出している。そのうちの1点『君公江被献候秋山先生之書』(天保2年)の写本が、文書資料室所蔵の「古志郡宮下村横山家文書」の中に蔵書として含まれている(写真上段右)。横山家は宮下村の割元をつとめていた。景山存命中の同7年に筆写されていることから、領民にとっても景山の藩政改革案は興味深いものであったことがうかがえる。

横山家文書には他にも、景山が『論語』の内容を章 ごとにわかりやすく解説した『夢の道しば』(文政5年)、後漢の学者・崔子玉の「座右銘」を一行ずつ抜 き出して解説した『亀農与波飛』(かめのよはひ、文 政7年)の写本が存在する(写真上段中・左)。横山家の当主亀太郎が天保13年に写したもので、いずれも藩校で学ぶ子どもたちのための手引書である。藩の学問への興味をも示しているものといえよう。

横山順則 亀太郎は文政9年、景山から「順則」の号を授かる(写真下段)。これは、亀太郎が景山の下で教えを受けていた証しといえるだろう。景山が崇徳館都講に就任する3年前のことである。

亀太郎ら領民が崇徳館教授の景山と、どこでどのようにして接点を持っていたのかはわからない。しかし 景山の学問は、家中のみならず領民にまでも浸透し、 影響を与えていたことは確かである。



▲反町茂雄文庫展で紹介した古志郡宮下村横山家文書の一部

【主な参考文献】

· 今泉鐸次郎『北越名流遺芳』

(目黒書店、大正7年)

- ・小川和也『文武の藩儒者 秋山景山』
 - (角川学芸出版、平成23年)
- ・反町茂雄文庫目録第2集『越佐郷村の古文書』 (長岡市立中央図書館、平成7年)
- ・長岡市史双書No.60『古書肆弘文荘・反町茂雄と長岡 「反町茂雄文庫文庫目録」第2集(補遺)』

(長岡市立中央図書館文書資料室、令和3年)

【反町茂雄文庫展にて展示の一部を担当しました】

令和3年12月4日~19日、長岡市立中央図書館において所蔵資料展「生誕120年没後30年 反町茂雄文庫展~伝説の古典籍商がふるさと長岡に贈った郷土資料~」が開催され、のべ1,101人の皆様にお越しいただきました。

本展は当市出身の古典籍商・反町茂雄氏が寄贈した郷土資料等からなる「反町茂雄文庫」(中央図書館・文書資料室所蔵)を氏の業績と共に紹介したものです。

当室は「越佐郷村の古文書」を担当し、古志郡宮下村横山家文書をはじめとする新潟県内の村々の古文書約 100 点を展示しました。

《新たに公開した所蔵資料一覧》※寄贈・寄託順。保管場所の都合等で当日閲覧できない資料もあります。

- ・山﨑昇資料 (近代・現代、24 点)
- ・魚沼郡牛ヶ島村文書(近世~現代、443点)
- ・新保和雄資料(長岡市内撮影写真 ほか)

(近世~現代、145点)

- ・新潟県産業博覧会リーフレット (現代、1点)
- · 北魚沼郡小千谷町野澤家旧蔵絵葉書

(「日本一大煙火」ほか)(近代・現代、2点)

大日本職業別明細図之内

新潟県長岡市見附町与板町 ほか(近代・現代、3点)

- ・長岡市内撮影写真(旧新潟大学工学部)(現代、58点)
- ・東京オリンピック (昭和 39 年) 新聞記事スクラップ (現代、1点)
- ・『はつ神楽』(近世、1点)
- ·長岡藩関係文書断簡(近世、4点)

(令和4年2月末日現在)



▲東京オリンピック(昭和39年)新聞記事スクラップ(表紙)



新型コロナウイルス感染症関係資料の収集・保存

文書資料室は、新型コロナウイルス感染症の関係資料を収集しています。ウイルス禍の市政と市民生活を語り継ぐための歴史資料として保存することが目的です。これまで、市長メッセージポスターのデータ、注意喚起の掲示物・表示、感染拡大防止対応の記録写真などを収集・保存しました。

当室所蔵の長岡市災害復興文庫は、災害史研究や防災の分野で活用されています。文書資料室では、感染症資料をポストコロナに向けた経験・教訓として広く情報発信することや、現代感染症史研究の素材として活用していくことを検討しています。

◀互尊文庫入口ドアの掲示記録写真(令和3年9月撮影)

「市長メッセージポスター」などの写真は感染拡大防止対応の記録になります

文書資料室のホームページは…

活動記録で イベントの 思い出が よみがえる! ほしい刊行物の 在庫状況が PDF で わかって便利! 利用の多い資料目録が 続々デジタル化 &アップロード! 中の人 (職員) が 時々つぶやく らしい…

情報盛りだくさん! ぜひ見てください!

https://www.lib.city.nagaoka.niigata.jp/?page_id=134

○文書資料室の移転について

文書資料室は、令和4年3月31日閉館のサンライフ長岡の建物に移転する予定です。令和5年度の開館を目指し、資料や書籍の引っ越しをはじめ、移転に向けた作業を進めてまいります。これに伴いまして、令和4年度は例年と異なる運営になります。休館の時期、資料整理ボランティアの活動の時期など詳細は決まり次第、ご連絡いたします。

《編集後記》節目の第 20 号を無事お届けすることができました。関係各位に厚く御礼を申し上げます。創刊号の巻頭言に当時の稲川明雄室長は、文書資料室の魅力を「昔人の努力を偲ぶ」「楽しい現代の哲学」の場と記しました。文書資料室 17 年のあゆみは、「昔人」の足跡が刻み込まれた多様な所蔵資料と、機関紙の発行をはじめとした様々な活動に結実しています。これからも新しい取り組みを探求する文書資料室にご期待ください。(文書資料室長)

令和4年3月31日発行 編集・発行:長岡市立中央図書館文書資料室 TEL 0258-36-7832 FAX 0258-37-3754 〒940-0065 新潟県長岡市坂之上町3-1-20 (長岡市立互尊文庫2階) E-mail: monjo@lib.city.nagaoka.niigata.jp